

4. おわりに

■おわりに

地域における災害リハビリテーションの確立に向けて

JRATでは、災害リハビリテーション研修企画委員会を中心に、大規模災害発災時にリハ関連専門職が連携して速やかに適切な対応がとれるように備えることを目的に、災害リハ研修を企画・開催してまいりました。まずは各地域の災害対応の要となるコーディネーターの養成から着手し、平成25年度中に各都道府県から多職種チームで参加していただく研修会を計4回開催いたしました。関係各位の多大なるご支援・ご協力のもと、年度内に全都道府県を網羅することができましたことを心から御礼申し上げます。

JRATでは災害リハ体制の整備に向けた段階的な到達目標を掲げており（表1-1～1-4）、平成26年度以降は、この実現に向けて表2に示す活動に取り組んで行くことを計画中です。これらの活動に必要な財政基盤の確立も重要な課題であり、JRAT参加団体からの拠出金に加え、各種補助金への応募も積極的に行ってまいりたいと考えております。

それぞれの地域の特性を活かしながら、全国のリハ関係者が一丸となって、関係機関との連携を深めながら、目標達成に向けた取組みを強めていくことが求められています。引き続き、皆様の暖かいご支援・ご協力をお願い申し上げます。

JRATシンクタンク代表・災害リハビリテーション研修企画委員会委員長
里宇明元

表1-1

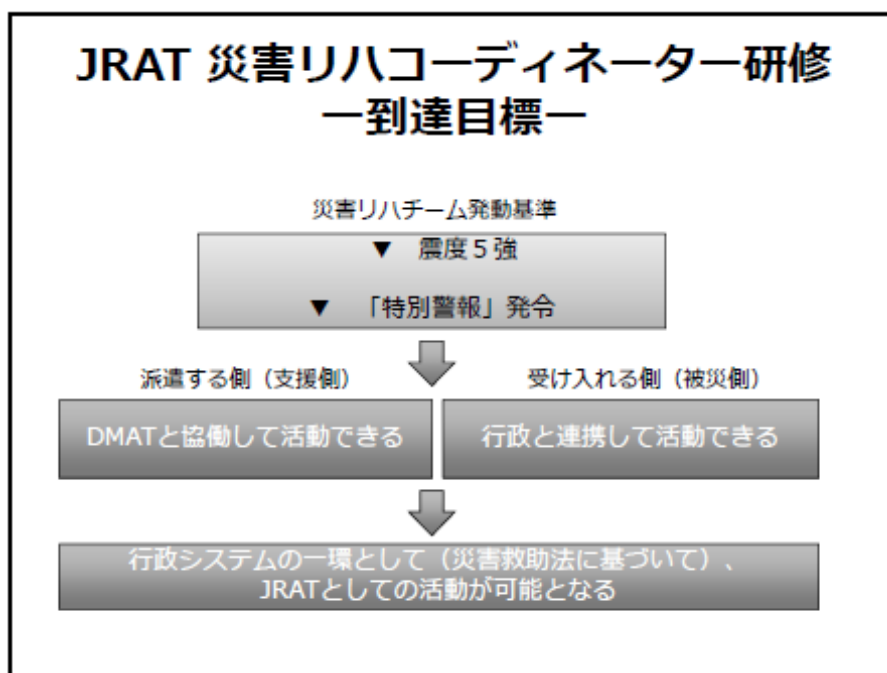


表1 - 2

JRAT 災害リハコーディネーター研修：到達目標 —普及（啓発期）—	
<ul style="list-style-type: none"> □ 多職種代表者による組織が立ちあげられる。 □ 代表者および防災担当者が集まり、連携マニュアルを作る。 □ 派遣登録者リストの作成が終わる。 □ 緊急時連絡が可能なメンバーリストの作成が終わる。 □ 都道府県単位で行政担当者との連携が可能になる。 □ 災害拠点病院・福祉避難所等の場所、その経路を確認する。 	

表1 - 3

JRAT 災害リハコーディネーター研修：到達目標 —発展期—	
<ul style="list-style-type: none"> □ 行政の防災訓練に地域JRATとして参加する。 □ 職種毎の研修会が定期的に行われる。 □ 地域において、多職種間（JRAT）での研修および防災訓練が行われる □ 地域内で標準プログラムに基づいた災害リハビリテーション研修会を定期的開催できる。 □ 地域のDMAT、災害医療コーディネーターとの連携体制を構築する。 □ 被災時に障害者、災害弱者を把握するシステムが構築される。 □ 関連学会に「災害リハセッション」が設置され、一般会員への啓発を行う。 	

表1 - 4

JRAT 災害リハコーディネーター研修：到達目標 —成熟期—	
発災	<ul style="list-style-type: none"> □ 災害発生時にDMATと共に被災地に入る。 □ 真に自立したチームになっている（情報伝達、移動手段、燃料食料・水・生活を含む）。
3時間	<ul style="list-style-type: none"> □ 行政の災害対策の中にJRATが位置づけられる。
24時間	<ul style="list-style-type: none"> □ 多職種の地域災害リハチーム内で連絡が完了し、数チームの手配が整う。 □ 被災地に拠点を設置している。
48時間	<ul style="list-style-type: none"> □ 派遣チームが構成される（待機チームが整い始める）。 □ 被災地の先発隊を最前線へ送ることができる。
72時間	<ul style="list-style-type: none"> □ 派遣体制が整い、待機できている。 □ 災害弱者の状況とニーズを把握できる。 □ 外からの支援リハチームを組織立って受け入れることができる。
6か月	<ul style="list-style-type: none"> □ 被災地域の災害リハチームと連携して活動を開始できる。 □ 外からの支援をバランスよく配属し、最前線の要求に応えることができる。 □ チームを派遣し続けることができる。 □ 外部からの支援受け入れの終了を判断し、被災地域自らの支援へと引き継ぎができる。

表2. 平成26年度以降のJRATの活動課題

1. 広報活動の強化
 - 1) JRAT ホームページの充実：広報、資料等ダウンロード、掲示板機能（情報交換）
 - 2) メディアへの活動内容の発信
 - 3) 学会等での発信・シンポジウム等の企画
 - 4) 国際的発信：国際リハビリテーション医学会（ISPRM 2014、メキシコ・カンクン）、リハビリテーション医学関係国際誌へのコーディネーター研修会のまとめの投稿。
2. 受講者メーリングリストの構築と管理/コーディネーターチームのデータベース化
3. 研修活動
 - 1) 災害リハビリコーディネーター研修会参加者に対するフォローアップ研修
 - 2) 「その後」の発表会・情報共有会
 - 3) 地域別・ブロック別研修会
 - 4) DMATとの合同研修
4. 都道府県・医師会等への働きかけの強化
 - 1) 防災訓練の際の避難訓練への協力（要援護者）
 - 2) 地域防災計画におけるリハの位置づけに向けた働きかけ
5. JRATの災害対応体制の強化
 - 1) 関係者の連絡体制が機能するかどうかのチェック
 - 2) 合同対策本部の立ち上げとその後の動き方のシミュレーション
 - 3) 地域防災計画におけるリハの位置づけに向けた働きかけ
 - 4) 登録コーディネーターに対する連絡体制構築とシミュレーショントレーニング
6. 大規模災害リハビリテーション対応マニュアルの改訂
 - 1) 現場からのフィードバック
 - 2) 社会情勢の変化
 - 3) 災害対応に関わる諸制度の変化、など
7. 活動のための財政基盤の確立：JRAT参加団体拠出金、各種補助金への応募